

## 安心は挨拶から 安全は名前から ～私たちと来院する全ての皆さまとの約束～

医療安全ワーキンググループ リーダー 神園 淳司



皆さんに間違った診療行為を行う「患者誤認事故」を確実に防ぐには、診療行為のまえに「皆さんにフルネームを尋ね、フルネームを言ってもらって皆さんを確認する」ことが最も効果的と言われています。私たちは病院のルールとして、皆さんへの丁寧で元気なご挨拶のあと、皆さんと私たちが安心できるまで何度もフルネームをお尋ねいたします。この患者誤認防止のための行動を理解してもらえるように、院内のポスターなどを利用して皆さんへの啓発活動を継続します。みなさまへの安心と安全な医療のためにご協力よろしくお願ひいたします。

### スタッフ紹介

看護科総看護師長  
**崎田 幾子さん**



院内で働くスタッフの紹介バトンリレー!

#### 3. 趣味・特技は何ですか?

年に数回の音楽コンサートとグルメツアードです。  
美味しいと聞けばどこまでも出かけます。

#### 4. 自分の性格は?

前向き、おおまかで楽観的、気が強く、短気だと思います。

#### 5. これから挑戦したいことは?

看護管理学会での発表

#### 6. 今、困っている事は?

体重コントロール。どなたか良い方法をご存じないでしょうか?

#### 7. 最近嬉しかった事は?

4人目の孫が生まれました。新たな小さな生命に癒しと大きなパワーをもらい、日々の活力となっています。

#### 8. 次にどなたか紹介してください。

いつも笑顔でパワフルな東5階看護補助の野中直美さんを紹介します。

#### 1. どのような仕事をしていますか?

看護科全体の管理、運営の責任者です。業務管理、看護管理、人事管理、労務管理、さらに、より質の高い、患者に寄り添った看護が提供できる職員の育成、職員個々のキャリアアップを支援しています。

#### 2. 頑張っていることはなんですか?

笑顔で明るい挨拶が交わされる職場風土作りです。  
時間があれば一人でも多くの職員に挨拶や声かけするように心がけています。  
最近では、スタッフの顔を見ただけで、その日の元気度がわかります。

編集後記

第2夜間・休日急患センターの移転は、当分の間の混乱が予想されますので、お知らせをさせていただきます。また、この時期に注意したいやけどについて載せていくが、受傷時の初期の処置は緊急時の知恵として、ぜひ参考にしてください。

# やはた病院ニュース

市立八幡病院  
広報誌  
第30号

2013年2月28日発行 発行・編集:八幡病院広報委員会

## 「第2夜間・休日急患センター」の移転について

経営企画課企画係長 諸熊 武史



### 平成25年5月7日(火)、 八幡西区黒崎の『コムシティ』に移転

市立八幡病院に併設されている「第2夜間・休日急患センター」は、ゴールデンウィーク後の平成25年5月7日(火)に八幡西区黒崎駅前の『コムシティ』に移転します。

「第2夜間・休日急患センター」は、北九州市西部地区の夜間、休日の診療機能を有する施設として平成7年7月に当院内で診療を開始しました。以来多くの市民の方々に利用され地域の安全・安心に貢献してきました。一方で、当院に併設されることによる様々な課題や問題が見られるようになってきたため、市保健福祉局などの議論を経て、当院から分離独立させ再スタートを図ることになりました。

### 『コムシティ』での診療について

5月7日からは、「第2夜間・休日急患センター」の内科、外科、整形外科は、『コムシティ』地下1階で診療を行います。診療時間はこれまでどおり、平日、土曜の19時から23時30分まで、日曜・祝日は8時30分から23時30分までです。

### 小児の初期救急は引き続き市立八幡病院で

小児の夜間、休日の対応については、5月7日からも引き続き市立八幡病院で行います。当院北棟の小児救急センターにおいて、初期救急医療から高次救急医療まで24時間365日の対応を行います。

(※『コムシティ』では、小児科の診療はありません。ご注意ください!)

# やけどにご注意を

形成外科 田崎 幸博

## 1 帰省先でのやけど

八幡病院形成外科には、毎日のようにやけどの患者さんがお見えになりますが、特徴的なものにおじいちゃん・おばあちゃんの家の子どものやけどがあります。ファンヒーター・エアコンしか見たことがない子どもが、帰省先で石油ストーブに遭遇すると、危険を知らないまま近づいてやけどを負うのです。とくに危険なのが、ストーブの上のやかんや鍋。これをひっくり返すと、たとえ大人でも重いやけどを負いますので、絶対禁止です。



ストーブの上にやかんをかけるのは危険

## 2 便利の裏に潜む危険

一方で、新しい道具でのやけども見られます。安全そうにみえるファンヒーターも吹き出し口は高温なので、金具の形のままにしま模様の深いやけどになります。加湿器にはスチーム式と超音波式があり、スチーム式は炊飯器と同じく高温の蒸気が出るので、これも要注意。最近はやりのウォーターサーバーでは、幼児が90℃近いお湯を浴びる事故が起こっています。あつという間にお湯が沸くことで人気の電気ケトルも、とくに海外製品は倒れると熱湯がこぼれやすくなっています。新しい便利なもの裏に潜む危険には気をつけたいものです。

これはむしろ懐かしい道具ですが、数年前からの湯たんぽブームで、すねにコイン大のやけどをするかたが増えてきました。これは低温熱傷といって、じわじわと煮えるように熱が伝わって深いやけどになるので、皮膚移植が必要になることもしばしばです。

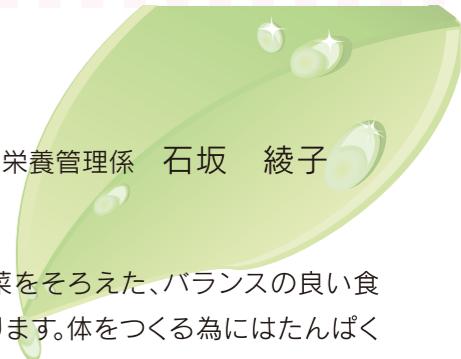
## 3 やけどしてしまったら

もし不運にもやけどをしてしまったら、1秒でも早く流水で熱を冷まし、濡れたタオルで保護して病院を受診しましょう。アロエの葉には土の中の破傷風菌が付着しているおそれがありますから、貼ってはいけません。病院では、適度に湿った環境に整え、治癒に働く細胞が活躍しやすいように各種の薬剤や被覆材を使い分けます。

最近、食品用ラップを傷に貼りっぱなしにするという誤った療法で重い感染症を起こすケースが問題になっており、日本熱傷学会からも警告されています。やけどは甘く見ず、専門の治療を受けましょう。

# アンチエイジング に関する食事について

栄養管理係 石坂 綾子



食生活を考えるときには病気の予防や管理はもちろん重要ですが、アンチエイジング（老化防止）にも目を向けてみましょう。老化の原因には、若さを保つホルモンや成分の減少や、酸素を体の中に取り入れることで生じる酸化（サビ）、紫外線やストレスで体が傷つけられることなどがあります。

若さを保つ成分として、「コラーゲン」や「ヒアルロン酸」などを思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。コラーゲンは手羽先や豚足に多く含まれ、体の柔軟性、弾力性、伸縮性を保つ役割をしています。ヒアルロン酸はからだの水分を保つ役割をしており、関節の衝撃を和らげたり、肌や髪を乾燥から守ったりします。しかし、老化の原因から体を守る為には、これらの成分をとるだけでなく、1日3食、



主食・主菜・副菜をそろえた、バランスの良い食事が基本になります。体をつくる為にはたんぱく質が欠かせませんので、動物性たんぱく質（肉、魚、卵、乳製品）と、植物性たんぱく質（大豆製品）をバランスよくとりましょう。油脂類の摂取も不足しないようにしましょう。また、野菜や果物に多く含まれるビタミン類やポリフェノールは、体の酸化を防ぎますので、緑黄色野菜（にんじん、かぼちゃ、ホーレン草など）や根菜（れんこん、ごぼうなど）など、いろいろな種類を食べましょう。

この他にも、家族や友人と会食の機会をつくり食事を楽しむことや、噛む力を維持するために定期的に義歯の点検をすることも大切です。アンチエイジングを実践する上で、からだをつくる原料となる食事は重要ですので、日頃の食生活を見直し、今日から実践してみましょう。

知っておきたい感染症・感染対策のはなし

No.8

インフルエンザ

ICT委員会

今回は、インフルエンザに罹った家族を看病する時の感染対策についてのお話です。

インフルエンザに罹った人には、家族が集まる場所からできるだけ離れた所か、仕切られた部屋で休んでもらいましょう。看病される人もする人もマスクをつけ、看病する前後は手洗いをしましょう。また、唾液による感染を防ぐため、食事は個別のお皿に準備したほうが良いでしょう。みんなが触るドアノブや電気のスイッチなどは、こまめに清掃しましょう。お部屋の換気をしたり、適度に加湿（40～60%）することもインフルエンザの感染予防になります。